

小学校低学年の道徳科教科書におけるいじめ防止教材

Bullying in the textbook of moral education of elementary school

丸 橋 静 香*

Shizuka MARUHASHI

要 旨

いじめ問題へ対応は、今日の道徳教育の大きな課題である。本稿では、道徳科のいじめ問題への対応を改善する予備的な作業として、小学校低学年の現行道徳科教科書において、いじめ防止に関して、どのような内容が盛り込まれ、どのような傾向があるのかを明らかにした。その結果、さまざまな善悪を理解させること、友達とのかかわりにおいて好き嫌いで判断したりせず偏りのない態度をとること、助け合うことに強調が置かれていることが分かった。

〔キーワード〕 道徳科、いじめ、教科書、小学校、低学年

I はじめに

いじめは今日の大きな教育課題のひとつである。なかでも、道徳教育には、いじめ防止に対して大きな期待が寄せられている。周知のように、平成27年3月に、学校教育法施行規則が改正され、「特別の教科である道徳」（以下、道徳科）が成立したが、ここには「いじめ問題への対応」が期待されている。道徳科の学習指導要領解説では次のように述べられている。「今回の道徳教育の改善に関する議論の発端となったのは、いじめ問題への対応であり、児童がこうした現実の困難な問題に主体的に対処することのできる実効性ある力を育成していく上で、道徳教育も大きな役割を果たすことが強く求められた」（文部科学省 2018、3）。

それでは、道徳科において、いじめ防止はどのように構想されているのだろうか。このことを明らかにするために、本稿では、現在の道徳科の教科書、なかでも小学校低学年の教科書において、どのような内容が盛り込まれ、どのような傾向があるのかということを明らかにしたい。こうした作業には、道徳教育を改善するための予備的な役割があると考えている。

II 調査の対象と方法

本稿では、令和6年（2024年）度に発行された6社の小学校道徳科の教科書（学研『新版みんなの道徳』、教育出版『小学道徳 はばたこう明日へ』、光文書院『小学道徳 ゆたかな心』、東京書籍『新編 新しい道徳』、日本文教出版『小学道徳 生きる力』、光村図書『道徳 きみ

*島根大学教育学部附属教師教育研究センター

がいちばんひかるとき』)を調査の対象にしている。これら6社の1年生から2年生までの教科書、計12冊について、いじめがテーマとされている50教材を特定した(資料1を参照)。いじめ防止教材の選定に際しては、各教科書出版社の次のような表記を手掛かりとした。学研の場合は、「いじめぼうし」のマーク(握手のマーク)が付いている教材。教育出版の場合は「いじめをなくす」の枠が目次に掛けられている教材。光文書院の場合は「いじめを うまない ところ」のマーク(掌の上にハート)が付いている教材。東京書籍の場合は「「いじめ」について」の枠が目次に掛けられている教材。日本文教出版の場合は「いじめをなくすために」の枠掛けが目次にある教材。光村図書の場合は「いじめをゆるさないところ」という枠掛けが目次にある教材。これらを、「いじめ防止」教材と見なした。なお資料1は、各教材のタイトルと概要、その教材に関連付けられた内容項目(出版社が設定したもの)をまとめたものである。

Ⅲ 結果

1. 学年ごとの違い

学年ごとで、いじめ防止の資料数は違いがあるのか。表1のとおり、1年生28教材、2年生22教材と、1年生の方が6教材多かった。

表1 小学校低学年道徳教科書におけるいじめ防止教材数

学年	1年生	2年生	計
教材数	28	22	50

2. 教科書出版社ごとのいじめ防止資料の取り上げ

出版社ごとの違いは、表2にまとめた。いずれの教科書にもいじめ防止に関する教材が掲載されていた。そのなかで最も多かったのは学研の21教材であった。日本文教出版が7教材、教育出版、光文書院、光村図書が6教材、東京書籍は4教材であった。

学年ごとの違いは、学研が1年生13教材に対し、2年生8教材と5教材の差があるが、他の教育出版、光文書院、東京書籍、日本文教、光村図書は、3教材ないし2教材と同数か、1教材の差(日本文教)しかない。1年間の授業時数35時間(2年生の場合)のうち、学研を例外とすれば、2～3時間がいじめ防止のための授業として構想されていることが分かる。

表2 教科書会社ごとのいじめ防止に関する教材数

発行元	学研	教育出版	光文書院	東京書籍	日本文教	光村図書	計
教材数	21 (13/8)	6 (3/3)	6 (3/3)	4 (2/2)	7 (4/3)	6 (3/3)	50 (28/22)

※括弧内の前者は1年生、後者は2年生の教材数：(1年生／2年生)

3. 教材の内容

教材の内容はどのようなものか。本稿ではまず、学習指導要領に示された内容項目との関連から整理する(表3)。なお内容項目と教材の関連づけは、各教科書出版社が行ったものである。多く関連づけられている内容項目は、「善悪の判断、自律、自由と責任」(A領域)(10教材)、「公

正、公平、社会正義」(B領域)(10教材)であった。続いて、B領域の「友情、信頼」(8教材)、「親切、思いやり」(6教材)、A領域の「個性の伸長」(2教材)、B領域の「礼儀」(2教材)、「よりよい学校生活、集団生活の充実」(C領域)(2教材)である。1教材のみ関連づけられているのは、A領域の「正直、誠実」、「節度、節制」であった。D領域に分類される内容項目には、いじめ防止の教材は関連付けられていなかった。

以下、関連づけの多い内容項目ごとに詳しく見ていく。

表3 いじめ防止教材と内容項目との関連

内容項目	教材数(括弧内は資料1の教材番号)
A 主として自分自身に関する事	善悪の判断、自律、自由と責任 10 (2,7,15,20,22,32,41,43,46,49)
	正直、誠実 1 (31)
	節度、節制 1 (3)
	個性の伸長 2 (6,24)
	希望と勇気、努力と強い意志 0
B 主として人との関わりに関する事	親切、思いやり 6 (11,12,26,35,36,45)
	感謝 0
	礼儀 2 (1,10)
	友情、信頼 8 (9,13,21,29,33,37,42,44)
	相互理解、寛容 0
C 主として集団や社会との関わりに関する事	規則の尊重 0
	公正、公平、社会正義 10 (5,8,14,18,19,23,27,30,34,38)
	勤労、公共の精神 0
	家族愛、家庭生活の充実 0
	よりよい学校生活、集団生活の充実 2 (4,48)
	伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 0
	国際理解、国際親善 0
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事	生命の尊さ 0
	自然愛護 0
	感動、畏敬の念 0
	その他※ 8 (16,17,25,28,39,40,47,50)
計	50

※「その他」は、コラム教材等で、内容項目と紐づけられていない教材。

(1)「善悪の判断、自律、自由と責任」(10教材)

ここに関連付けられた教材は、三つに大別できる。一つ目は、明確に善悪が示されているもの(2、15、20、22、43、49)(括弧内の番号は、資料1の教材番号。以下同様)。二つ目は、悪い行為が示され、その裏返しで善い行いが(暗に)示されているもの(32、41、46)。三つ目は、善い行為も、悪い行為も明確には示されておらず、どのような行為が善いのか、悪いのかを考えさせるもの(7)。なお、行為の善悪は、教科書に書かれているわけではないので、本稿著者の判断である。

1) 明確に善悪が示されている教材

教材ごとに、どのような善悪が示されているか、見てみよう。教材番号2では、善い行為として、落ちていたものをもってあげる、(授業時に)「はい」と返事をする、あいさつをする、(怪我した友だちに)「だいじょうぶ」と声をかけるが、悪い行為として、友だちを叩く、割り込みをする、靴箱の靴を揃えない、が挙げられている。教材番号15、20(同じ内容の教材)では、悪い行為として、他者のもの(プリン)を勝手に食べる、善い行為として、勇気を出して謝罪を求めた、が示されている。教材番号22では、悪い行為として、友だちを泣かす、友だちの耳をひっぱる、友だちを睨むが、善い行為として「いじわるは、やめろよ」と言う、が示されている。教材番号43では、悪い行為として、罪を友だちになすりつける、善い行為として、なすりつけられた罪が偽りであることを(無言だが)態度で表す、が示されている。

2) 明確に悪い行為が示され、その裏返しで善い行いが(暗に)示されている教材

教材番号32では、「きけん」「あそばないで」と表示されている「水の広場」で、上級生が遊んでいることが悪い行為として示されている。善い行為として、(その水遊びを)注意することが、暗に示されている。教材番号41は、くつかくし、わるぐち・かげぐちが悪い行為として示されている。それに対し、(靴を)いっしょにさがす、隠した人を非難する、陰口を言われた子をなぐさめるといったことが、教科書の絵から、暗に善い行為として示されている。教材番号46では、悪いこととして、くつかくしが挙げられている。善い行為として、(靴隠しをした子に)その行為の非を伝えるということが、文脈から窺える。

3) 善い行為も悪い行為も明確には示されていない教材

教材番号7は、善い行為も悪い行為も明確には示されていない。ただ、文脈から、善い行為は、(意図的ではないが)他者の工作の作品を壊してしまったことを正直に申し出る、悪い行為は、そうした申し出をしないということが窺える。

(2)「公正、公平、社会正義」(10教材)

ここに分類される10教材は、大きく三つに区分される。一つ目は、仲の良い友だちを最良・優遇してしまうことを戒めるもの。ないしは、好き嫌いで、人とのかかわりの仕方を決めてしまうことを戒めるもの(5、8、18、27、34、38)。二つ目は、仲間外れを良くないことだと気づかせる教材(14、23、30)。三つ目は、属性や特徴による差別の非を気づかせる教材(19)。

1) 仲の良い友だちを優遇することを戒める教材

どのような優遇ないし最良の様子が描かれているのか。具体的には、従来仲の良かった友だちにだけ、描いていた絵を見せる(5)、公平なグループ分け(じゃんけん)で別のチームになったにもかかわらず、好きな友だちと同じチームになることにこだわり、同じチームになった友だちを拒絶する(8)、頼まれた飴玉配りに対して仲良しの友達に、他の子よりも思わず多く配ってしまいそうになる(18)、遠足のバスの席決めで、好きな友達以外の友だちを難癖をつけて拒絶する(27)、そうじ時の机当番において、仲の良い友だちの机は丁寧に拭くが、そうでは

ない子の机は適当に拭く (34)、掃除のごみすて当番において、好きな友達と遊ぶために、おとなしい別の友達に、ごみ捨てを押し付ける (38)。こうした優遇の様子が描かれ、そうした行為が、暗に不適切であることが、教材の文脈や、教材に付随した問いかけから浮彫にされている。

2) 仲間外れを明確に良くないことだと気づかせる教材

好きではない友だちを排除することが善くない行為として示されている。例えば、教材14、23では、遊びたくない友達には「(仲間に入るのは) だめ」と言ってしまう。そのさい、教材には、仲間外れが悪い行為だとは書かれていないが、仲間外れが良くない行為であることは文脈から窺える。

3) 属性や特徴をもとにした差別は良くないということを戒める教材

個人の属性や特性に依拠して、好き嫌いないしは仲間はずれを行うことの問題性が問われている教材もある (30)。ここでは、にんじんや落花生が、「つちのなかに いたから」、「いやだなあ」と言われている。にんじんや落花生の、取り外しえない属性や特徴をもって、仲間外れが行われようとしている。この教材は、このように、属性に基づく差別が問題であることを考えさせようとしていると言える。

(3) 「友情、信頼」(8教材)

「友情、信頼」に関連付けられた教材は、他者の窮状に配慮する重要性に気付かせる教材 (9、13、21、42) と他者への貢献の重要性に気付かせる教材 (29、44) の二つに大別できる。

1) 他者の窮状に対する配慮の重要性に気づかせる教材

窮状とそれへの配慮は次のようなものである。空腹のきつねにうさぎが乏しい食糧を分ける (9)、誕生会に友達が来ず寂しいやまがらのところに、みそさざいが訪問する (13)、友達ができずに寂しいのししを、たぬき、きつね、うさぎが遊びに誘う (21)、遊びにおいて置いてけぼりになったりすを、あひる、かめ、白鳥は迎えにいく (42)。

2) 他者(友だち)への貢献の重要性に気付かせる教材

教材番号29では、くじゃくは、きれいな羽を自慢しているときは、友達ができなかったが、周りの世話をあれこれするという貢献をしたことで友達ができる。教材番号44では、わがままなきつねと対照的に、まわりの動物は相互に献身的であり、それを見てきつねは自分が恥ずかしくなることが描かれている。これらは、人とのかわりにおいて他者への貢献が重要であることを示唆している。

3) その他

教材番号33、37は、上の1) 2) の区分には収まらない。教材番号33では、けんか後の仲直りの様子が描かれている。また、教材番号37では、隣同士だがいつも揉めてしまう二人の思い(のすれ違い)が描かれている。

(4)「親切、思いやり」(6教材)

「親切、思いやり」と関連付けられた教材は、大きく二つに区分される。一つ目は、「親切、思いやり」それ自体の良さに気づかせようとする教材、二つ目は、「親切、思いやり」にも様々な考え方があることに気づかせる教材である。

1)「親切、思いやり」それ自体の良さに気づかせる教材

「親切、思いやり」の具体としては、狭い一本橋をすれ違いできるように抱きかかえて通してあげる(11)、ボールを譲ってあげる(12)、大荷物をもった友だちを手助けする、落ちた筆箱を拾ってあげる、落ち込んだ友だちの話をきいてあげる、転んだ友だちに手を差し伸べる、仲良く遊ぶ(26)、友だち(りす)の元に餌を天気が悪くても何度も届ける(35、45)。これらの教材では、こうした行為から、「親切、思いやり」の良さや重要性を気づかせようとしている。

2)「親切、思いやり」にも、多様な考え方があることを気づかせる教材

教材番号36は、「良かれ」と思って配慮したこと(おにごっこ時に、手加減をする等)が、相手にとっては嬉しいことではないこともあるということを気づかせる教材である。「思いやり、親切」の難しさに気づかせる教材でもある。

(5)「個性の伸長」(2教材)

教材番号6、24は、ともに、人にはそれぞれ得意なこと苦手なことが色々あることを気づかせている。そのうえで、(暗に)それぞれが個性を伸ばすことの重要性を示唆している。

(6)「礼儀」(2教材)

教材番号1、10は、礼儀(あいさつ、かかわりにおける他者への敬意)が人間関係において重要であることを気づかせている。

(7)「よりよい学校生活、集団生活の充実」(2教材)

教材番号4、48では、安定した学校生活の基盤として、教室の整頓やそのための協力の重要性が示されている。

(8)「正直、誠実」(1教材)

教材番号31では、たぬきが嘘をつき続け、最終的に窮地へ立つことが描かれている。嘘はいけないこと、正直で誠実であることの重要性が示唆されている。

(9)「節度、節制」(1教材)

教材番号3では、好き放題つるをのぼすかぼちゃが、最終的につるを車に轢かれて痛い目にあうことが描かれている。節度、節制の重要性が示唆されている。

(10) 内容項目と関連付けられていない教材（8教材）

これらはすべて、内容項目と関連付けられたいじめ防止の教材の前後に、補充的に置かれた資料である。もっとも多いのは、直截的にいじめ行為を示す資料（それゆえ、そのようないじめ的な行為は良くないことだと気づかせる資料）である（16、28、39、40、50）。また、それとは反対に、「だれとでも なかよく」することが良い事だと示唆する教材がある（17）。さらに、日本文教出版の「心のベンチ」と題された、コラム的な教材がある（25、47）。

1) 直截的にいじめを想起させる教材

示されたいじめ行為として、次のようなものがある。「仲間に入れない」（「きみは いや」と言う）（16）。仲良しの友達にだけ掃除道具をとってあげる、好きな友達だけ列に入れてあげる（28）。縄跳びをできない子の前で、「こんなの二年生だから、できて とうぜん」と言う、足の遅い友だちの横で、「足のはやい石川くんのほうが、よかったなあ」と言う（39）。サッカーの仲間に入れてと言ってきた友だちに対し、「人数があわないからだめ！」と言う（40）。マツト運動を失敗した友だちに対しその失敗を面白がる、同じ班なのに仲間に入れない（50）。

また、これらの教材はすべて、そのページ内に「いじめ」という文言が配置されており、そのページを読む児童に、このページがいじめ（防止）に関する資料だと気づかせるような構成になっている。具体的には、次のような文言である。「いじめる いじめられる」、「いじめをなくす」（16）。「いじめをゆるさないところ」（28）。「いじめをなくす」（39）。「いじめをうまないところ」（40）。「いじめをゆるさない心」（50）。

2) 仲良くすることの良さを気づかせる教材

教材番号17は、いろいろな個性をもった子たちと、「だれとでも なかよく」することの良さをマンガ形式で示している。

3) 「心のベンチ」

教材番号25、47は、日本文教出版の「心のベンチ」と題されたもので、いじめ防止資料の後に置かれている。教材番号25は、多様なおもちゃや衣類が描かれており、自分の好きなものを自覚させる教材である。多様なジェンダーに配慮した資料とも考えられる。教材番号47は、ケアに満ちた「ふわふわ」言葉と、人を傷つけてしまうような「ちくちく」言葉が紹介され、「みんなが「ふわふわ」なことばをかけあえると いいね」と提案されている。いじめを生まない個々の姿勢や学級風土をつくることの重要性が示唆されていると考えられる。

4. 教材の登場人物

教材の内容を考察するに当たって、資料においてどのような者が登場しているかも重要な指標となると考えられる。そこで、このことを表4に整理した。資料1を一瞥すると、人間以外の動物や植物などが多く登場している。詳細はどうなっているのか。

総教材数50の内の21、すなわち42.0%が、小学校1年生では50.0%の教材が、動物や植物などの人間以外を擬人的に登場させている。

表4 小学校低学年道徳教科書のいじめ防止教材における人間以外の登場人物

学年	1年生	2年生	計
教材数	14 / 14 (50.0%)	15 / 7 (31.8%)	29 / 21 (42.0%)

※前方の数字が人間、後方の数字が人間以外、括弧内の割合は、全資料における人間以外（動物や植物など）の登場人物の割合

IV まとめと考察

以上の調査からは、いずれの教科書にも、いじめ防止のための教材が配置されており、いじめを生まない、させないための教科書づくりがされていることが分かった。内容全体に関しては、さまざまな善悪を理解させること、好き嫌いで判断したりせず偏りのない態度をとること、助け合うことの重要性などに、強調が置かれていた。もちろん、「くつかくし」（例えば41、46）や「仲間はずれ」（例えば14、23）といった、いじめの言わば典型的な様子を描き、そうした行動が良くないことを示唆する教材もあった。また、いじめ防止において重要とされる、傍観しないことの重要性（森田 2010,132）を示唆する教材もあった（例えば43）。とはいえ、小学校低学年の教科書全体においては、いじめ行動に直接立ち向かう気持ちや姿勢を喚起するというより、基本となる善悪に関する知識や、人とのかかわり方の基本的な姿勢といったものを提示することで、姿勢や学級風土といったいじめを生まないための前提を形成しようという傾向のほうが、強く見られた。

いっぽう、わずかだが、ジェンダーやマイノリティへの顧慮といった現代の問題意識を反映した教材も存在した。例えば、服装を選ぶ際に男女（ジェンダー）に囚われるのではなく、自分の「好き」に忠実でよいことを暗に示した教材（25）、属性や特性による差別を否定しようとする教材（19）もあった。こうしたいわば多様性への配慮も、近年、いじめ防止に重要と考えられるようになってきていることが窺える。

また、本稿では簡単にしか触れることができていないが、教材の登場人物の特徴も興味深い。全体で4割、1年生では5割の教材が、人間以外の動物や野菜が、擬人的に主に登場している。これは、いじめ防止に関しては、どう解釈すればよいだろうか。いじわるをしたり、されたりという若干ショックを伴う描写において、人間以外の「かわいい」登場人物の方が、読み手の児童において、そうしたショックを若干軽減するからだろうか。動物が人間の成長や教育に重要な役割を果たすのだろうか。例えば、「教育的保護」という観点（山名 2015）や人間（の教育）にとって動物の意味という観点（矢野 2002）などから、中学年、高学年、中学校の教材との比較で考えてみることも興味深いだろう。

参考文献

- 森田洋司（2010）『いじめとは何か』中央公論新社。
- 文部科学省（2018）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』廣済堂あかつき。
- 矢野智司（2002）『動物絵本をめぐる冒険』勁草書房。
- 山名淳（2015）『都市とアーキテクチャの教育思想』勁草書房。

資料1 令和6年度刊行の小学校低学年道徳科教科書におけるいじめ防止に関する教材

番号	タイトル(教科書出版社、掲載学年、掲載頁) ・概要	・登場人物 (人間以外は下線)	内容項目
1	<u>あかるい あいさつ(学研、1年、10～12頁)</u> ・家庭、学校、地域でのさまざまなあいさつの場面が絵で描かれている。あいさつは「きもちが いい」ことが示唆されている。	・小学生、父母、先生、地域の人	B-礼儀
2	<u>はりきり いちねんせい(学研、1年、14～15頁)</u> ・さまざまなかばおくんの様子(あいさつや親切をするかばお、友だちの頭を叩く・割り込みをする・靴をそろえないかばおなど)がイラストで描かれ、「すてきなかばおさんをさがしてね」と提案される。	・かばお(かば)、 <u>友だち、先生</u>	A-善悪の判断、自律、自由と責任
3	<u>かぼちゃの つる(学研、1年、16～18頁)</u> ・かぼちゃは、つるを好き放題伸ばしている。まわりの皆に注意されるも、気にしない。しかし、最終的に、トラックに轢かれて痛い目に遭う。	・かぼちゃ、はち、 <u>ちようちよ、すいか、犬</u>	A-節度、節制
4	<u>めだかの めぐ(学研、1年、30～31頁)</u> ・めだかのめぐは体が弱い、学校の皆は至る所で助けてくれる。めぐは、うれしくて仕方なく、早くに学校に行って、黒板をきれいに。皆に喜んでもらい、ますます学校が好きになる。	・めぐ(めだか)、 <u>友だち</u>	C-よりよい学校生活、集団生活の充実
5	<u>みらいが かいだ え(学研、1年、32～34頁)</u> ・みらいは、休み時間に絵を描き、それを同じ幼稚園出身のあすかに見せた。だが、違う園出身のげんきが、覗き込んできた際には、みらいは絵を見せなかった。あすかも、げんきもわけがわからない。みらいも黙ってしまった。	・みらい、あすか、 <u>げんき</u>	C-公正、公平、社会正義
6	<u>ほくの こと きみの こと：ほくの よい ところ／きみの よい ところ(学研、1年、48～50頁)</u> ・りくは体は小さいが、野菜をもりもり食べる。体の大きなたくまは野菜が苦手。りくは朝自分で起きるが、隣の席のゆうこは起こしてもらおう。でもたくまは足が速く、ゆうこはやさしい。これを踏まえて、「きみの よい ところも おしえて」と読み手に問いかける。	・りく、たくま、ゆうこ	A-個性の伸長
7	<u>だれも 見て いない：わざとじゃ ないよ(学研、1年、52～54頁)</u> ・二学期はじめ。教室には、多くの夏休みの作品が飾ってある。たけしとかんたは、友だちの作品を手にとって。たけしが触ったところが、床に落ちた。ふたりは顔を見合わせる。	・たけし、かんた	A-善悪の判断、自律、自由と責任
8	<u>じゃんけんぼん：ぼくは いいよ、やらない(学研、1年、60～62頁)</u> ・昼休み。じゃんけんでドッジボールのチームを決めることに。こうきは、仲良しのやすしと同じチームになりたかったが、違うチームに。「やらない」と言うこうきを、同じチームのみのりは誘うが、「やすしさんのほうがいい」と言われてしまう。みのりは涙目に。	・こうき、やすし、みのり、友だち	C-公正、公平、社会正義
9	<u>くりの み：じゃ、これを どうぞ(学研、1年、86～89頁)</u> ・きつねとうさぎは、寒い日、それぞれ食べ物を探しに。きつねは、たくさんのどんぐりをみつけ、おなかいっぱい。残ったどんぐりには落ち葉をかぶせて隠した。帰路、きつねはうさぎにあい、「何も見つからず、はらぺこ」と嘘をつく。うさぎは、二つしかないくりの実を、きつねに一つ譲ってくれた。	・きつね、うさぎ	B-友情、信頼

10	<u>ぽっかぽか：ごしんせつに ありがとう（学研、1年、90～91頁）</u> ・はるきはなおとと手洗いの順番をめぐってけんかに。下校時、はるきは、ハンカチを拾ってあげたおばあさんに「ごしんせつに ありがとう」と言われ、こころが「ぽっかぽか」になる。翌日、なおとに、手洗いの順番を譲られ、「ごしんせつに ありがとう」と言う。ふたりのこころは「ぽっかぽか」に。	・はるき、なおと	B-礼儀
11	<u>はしの 上の おおかみ：えへん へん（学研、1年、92～95頁）</u> ・おおかみは、一本ばしで、自分より小さなうさぎ、きつね、たぬきを追い払っていた。そこへ、大きなくまが現れる。おおかみは道を譲ろうとするが、親切に抱きかかえられ、通してもらう。翌日、オオカミはくまの真似をして親切をし、「前より いいきもち」になる。	・おおかみ、うさぎ、 きつね、たぬき、く ま	B-親切、思い やり
12	<u>ないちゃった：こんな とき どう する？（学研、1年、116～117頁）</u> ・きみえさんがボールで遊んでいたら、年下ののりちゃんがボールをとろうとしてきた。ふたりでとりあいをしていたら、のりちゃんが転んで泣いちゃった。こんなとき、どうする？	・きみえ、のり	B-親切、思い やり
13	<u>二わの小鳥（学研、1年、130～134頁）</u> ・みそさざいは、やまがらのうちへ行こうか、うぐいすのうちに 行こうか迷っている。今日はやまがらの誕生日。小鳥たちは皆よ ばれていました。が、皆は、うぐいすのうちでの音楽会の練習に 行きました。うぐいすのうちは明るいところにあり、やまがらの うちは山奥のさびしいところです。みそさざいは、やまがらが気 になり、やまがらのうちへ。やまがらは、涙を浮かべて喜びました。	・小鳥（みそさざい、 やまがら、うぐいす）	B-友情、信頼
14	<u>いっしょに あそぼう（教育出版、1年、56～58頁）</u> ・わたしはゆきちゃんを遊びに誘い、承諾を得る。そこにはるかちゃん が、加わりたいたうが、わたしはゆきちゃんとだけで遊びた かったので、「だめ」という。ゆきちゃんは、それは「なかまはずれ」 ではないかと、私に問う。	・わたし、ゆき、は るか	C-公正、公平、 社会正義
15	<u>ダメ！（教育出版、1年、59～64頁）</u> ・りすくんは、大好きなプリンを、くまくんに食べられてしまう。 「ダメ」と言えなかったことが悔しかった。翌日、りすくんは勇気 を出してくまくんに謝罪を求め、謝ってもらう。	・りす、くま	A-善悪の判断、 自律、自由と 責任
16	<u>いじめる いじめられる（教育出版、1年、65頁）</u> ・「だれでも いじめるひと、いじめられる ひとに なって し まうかもしれません。」という記述と、その様子を描いた絵が示さ れている。その絵のあとに、「ともだちと あそぶ とき、どのよう な ことがたいせつなのでしょう。」と問いかけられている。	・小学生	・内容項目の 割り当てなし
17	<u>おなじ ばしょに いろいろな ひと（光文書院、1年、65頁）</u> ・クラスには、なかよしの友達だけでなく、「ほかにもいろいろな ひとがいる」。それを受け、読み手は「いろいろな ひとと いっ しょに すごく ときに たいせつなことって どんなこと？」 と問いかけられる。	・小学生	・内容項目の 割り当てなし
18	<u>ぶうたの やくめ（光文書院、1年、66～69頁）</u> ・こぐまのぶうたは、祭りで、ぞうおじさんに、飴玉を公平に3 個ずつ配ることを任された。なかよしのけんちゃんに、一個多く 渡したくなるも、気持ちを押しとどめ、皆に平等に配ることができ、 「すっきり」した気持ちになった。	・こぐま、ぞう、り す、たぬき	C-公正、公平、 社会正義

19	<u>やさいむらの こどもたち (光文書院、1年、70～73頁)</u> ・トマト、きゅうりが、遊んでいるところに、落花生とにんじんがやってきて、「なかまにいて」と言うが、後者が泥のなかにいたことを理由に「いや」と言う。それを聞いた、落花生とにんじんは悲しむが、きゅうりの発言(泥云々より、「だいいなこと」がある)を発端に、みんなでたのしく遊ぶように。	・野菜(トマト、なす、きゅうり、落花生、にんじん)	C-公正、公平、社会正義
20	<u>ダメ (東京書籍、1年、66～69頁)</u> ・りすくんは、大好きなプリンを、くまくんに食べられてしまう。「ダメ」と言えなかったことが悔しかった。翌日、りすくんは勇気を出してくまくんに謝罪を求め、謝ってもらう。	・りす、くま	A-善悪の判断、自律、自由と責任
21	<u>こころはっぱ (東京書籍、1年、70～73頁)</u> ・こころはっぱの木は、みんなのこころの声が聞こえる。楽しいと明るい葉っぱ、悲しいと寂しい色の葉っぱになる。ある日、友だちが欲しいいのししくんが、こころはっぱの木の下に立っている。こころはっぱの色を見た、たぬきくん、きつねくん、うさぎちゃん、いのししくんを遊びに誘う。	・木(こころはっぱの木)、いのしし、たぬき、きつね、うさぎ	B-友情、信頼
22	<u>やめろよ (日本文教、1年、112～113頁)</u> ・こんきちはいつも誰かを泣かせているが、皆こわくて何も言えない。今日は、びんこの耳を引っ張っています。ぼんたは、勇気を出して「いじわるはやめろよ」と言うと、みんなも言いました。	・こんきち(きつね)、びんこ(うさぎ)、ぼんた(たぬき)	A-善悪の判断、自律、自由と責任
23	<u>ふたりだけで (日本文教1年、116～117頁)</u> ・ラッコのララとココはなかよし。いつもふたりで遊んでいます。そこにカカが「仲間に入れて」とやってくる。ララは「いやよ」と断るが、ココは「カカとも遊ぼう」と言う。ココとふたりだけで遊びたかったララは、考え始める。	・ララ、ココ、カカ(ラッコ)	C-公正、公平、社会正義
24	<u>あなたって どんな 人? (日本文教、1年、118～120頁)</u> ・えいとさんが、友だちのいいところを紹介している。はるきさん(友だちにやさしい)、ゆいなさん(ピアノ得意)、つばささんとさくらさん(挨拶が上手、先生の手伝いをする)の紹介をし、「ほくも、まねしよう」と言う。	・はるき、ゆいな、つばさ、さくら、えいと	A-個性の伸長
25	<u>わたしの すきな ○○ (日本文教、1年、122～123頁)</u> ・「あなたの すきな あそびには、どんな もの がありますか」と問いかけがあり、多様な遊具やおもちゃが描かれている。また、「あなたは、どんな ふくが すきですか。」と問いかけがあり、多様なデザインの服が描かれている。「すきな ものは みんなちがうだね」という表記がある。	・小学生	・内容項目の割り当てなし
26	<u>やさしい ひと、みつけた (光村図書、1年、48～49頁)</u> ・学校(教室、校庭)において、さまざまな親切の様子が描かれている。その絵のなかに、やさしい人を見つけて、その人の気持ちを推測することが提案されている。また、やさしくした自身の経験などが問いかけられている。	・小学生	B-親切、思いやり
27	<u>あしたは えんそく (光村図書、1年、50～53頁)</u> ・遠足へのバスの席をくじ引きで決めたが、うさぎさんは、ぞうさんの横は「せまい」から、さるさんの横は「うるさい」から、いやだという。最後に、うさぎさんは、ねこさんの横になる。うさぎさんは、ねこさんを好きだから喜ぶが、ねこさんからは、「いやいやばかりいう」から、「いや」と拒絶されてしまう。	・うさぎ、ぞう、さる、ライオン、ねこ	C-公正、公平、社会正義

28	<u>こんな こと、して ない？（光村図書1年、54頁）</u> ・いじわるのつもりはなくても、まわりに「いやだな。」「かなしいな。」と思っている友だちがいるかもしれないことを考えさせている。掃除道具を友だちだけとってあげる、給食の列に好きな子だけ入れてあげる等「あなたは、こんなことを して いませんか」と問いかける。	・小学生	内容項目の割り当てなし
29	<u>きれいな羽（学研、2年、12～13頁）</u> ・きれいな羽をもったくじゃくは、大得意で羽を見せびらかしている。次第に、ともだちが周りからいなくなる。ある日、くじゃくは遠足でみんなの世話のために活躍すると、周りには友だちが増えていた。	・くじゃく、くま、 きつね	B-友情、信頼
30	<u>およねい りすさん：うん、いい考えが ある（学研、2年、14～17頁）</u> ・あひる、かめ、白鳥が、池の中の島へ行行って遊ぶ相談をしている。そこへりすが来て、いっしょに遊びたい旨を伝えるが、「およねいから だめ」と言われる。3匹は、島で遊び始めるが、りすが気になり、楽しくない。	・あひる、かめ、白 鳥、りす	C-公正、公平、 社会正義
31	<u>子だぬき ポン：ポンちゃん、すごいね（学研、2年、34～37頁）</u> ・うそをつき続ける、子だぬきのポン。ある日、うそがばれそうになり、泣く。	・たぬき、さる、り す、あひる	A-正直、誠実
32	<u>水の広場（学研、2年、76～77頁）</u> ・みらいとあすかが、公園に行くと、「きけん 水の広場であそばないで」という看板が。だが、水の広場では、上級生が水に入り遊んでいる。あすかは、遊んでいる上級生を注意しようとするが、みらいはそれを制止してしまう。	・みらい、あすか	A-善悪の判断、 自律、自由と 責任
33	<u>竹馬と一りん車：目と目があった（学研、2年、78～80頁）</u> ・草太と花子は、近所に住む仲良しだが、ある日竹馬、一輪車の貸し借りをめぐって喧嘩になってしまう。別々に遊んでいたとき、同時に転んでしまうが、ちょうど目と目が合う。少しずつ、仲直りの方向へ。	・草太、花子	B-友情、信頼
34	<u>つくえふき：「ゴシゴシ」と「サッサッ」（学研、2年、106～109頁）</u> ・「つくえふき」の当番で。ゆうとさんは、なかよしの子の机は「ゴシゴシ」と丁寧に拭くが、そうでない子の机は、「サッサ」と適当に拭く。私は、良くない気がするが、はっきりとした理由が思い浮かばない。	・わたし、ゆうと、 かなみ	C-公正、公平、 社会正義
35	<u>ぐみの木と小鳥：小鳥は、とび立っていきました（学研、2年、110～113頁）</u> ・ぐみの木は、実をついばみにきた小鳥に、りすが最近姿を見せておらず心配だと伝える。小鳥は、ぐみの実を持って、りすの元へ。りすは病気だった。何度も、小鳥はりすの元へ、ぐみを届ける。りすはだんだんと快方へ向かう。	・ぐみの木、りす、 小鳥	B-親切、思い やり
36	<u>公園のおにごっこ：しばらく考えた みんなは・・（学研、2年、134～137頁）</u> ・公園でのおにごっこ。そこに、走るのが不自由な、幼稚園児のゆうたが仲間に入れてとやってくる。手加減するしんじたちだが、ゆうたはつまらなそう。皆と変わらない扱いをすると、ゆうたははりきり、楽しそう。	・しんじ、ゆうた、 よしえ	B-親切、思い やり

37	<u>みほちゃんと、となりのせきの ますだくん (教育出版、2年、34～39頁)</u> ・ますだくんは、みほちゃんに親切にしようとするが、受け止めてもらえず、いじわるをしてしまう(えんぴつを放り投げ、それが誤って踏まれて折れてしまう)。みほちゃんは、それが耐えられず、学校に行きたくない気持ちになる。	・ますだくん、みほちゃん	B-友情、信頼
38	<u>ごみすて (教育出版、2年、40～42頁)</u> ・かすみは、ごみすて当番のときに、ゆかちゃんと遊びたいので、おとなしいさつきちゃんに、ごみすてを押し付ける。すると、ゆかちゃんは、さつきちゃんを手伝って、ごみ捨てに二人で行く。かすみは、その姿を見て、はっとする。	・かすみ、ゆか、さつき	C-公正、公平、社会正義
39	<u>知らない うちに だれかを きずつけているかも・・・(教育出版、2年、43頁)</u> ・「こんなの二年生だから できてとうぜん」「山田くんと同じチームかあ。足の速い石川くんのほうがよかったな」といった発言などで、「知らないうちにだれかを傷つけているかも」と考えを促している。	・小学生	内容項目の割り当てなし
40	<u>こころの もやもや どうしよう？ (光文書院、2年、17頁)</u> ・お昼休み。サッカーをしている友だちに、〇〇くんは「ほくも入れて」と言ったが、「人数が合わないからだめ!」と断られる。それを踏まえ、「みんなと いる ときに、してはいけないことがあるよね」と問いかけられる。	・小学生	内容項目の割り当てなし。
41	<u>どうしよう・・・(光文書院、2年、18～19頁)</u> ・「くつかくし」をしてしまった子が、隠されて泣いている子、みんなと一緒に探している様子を見て「どうしよう・・・」と思っている。「わるぐち・かげぐち」を言っている子たちが、言われて泣いている子、なぐさめている子を見て、「どうしよう・・・」と考えている。	・小学生	A-善悪の判断、自律、自由と責任
42	<u>およねない りすさん (光文書院、2年、20～23頁)</u> ・あひる、かめ、白鳥は、島で遊ぶ相談をしている。そこへりすがやって来るが、「りすさんは、およねないから だめ」と言われてしまう。3匹は、島に渡り遊びはじめるが、りすが気になり、楽しくない。	・あひる、かめ、白鳥、りす	B-友情、信頼
43	<u>おれた ものさし (東京書籍、2年、38～40頁)</u> ・先生のものさしを折ったのぼるは、罪をひろしになすりつけ、挙句折れたものさしを押し付ける。以前、ぼくはのぼるから同様の仕打ちを受けていた。ぼくは思わすひろしのところに駆け寄り、ものさしをとり、のぼるに渡した。	・のぼる、ひろし	A-善悪の判断、自律、自由と責任
44	<u>森のともだち (東京書籍、2年、41～45頁)</u> ・森のどうぶつたちは、助け合って暮らしていたが、新たに越してきたこんきちはわがままで友だちが回りからいなくなる。だが、ある日オオカミに抑え込まれたこんきちを、皆が助けてくれる。なのに、こんきちは自分だけが逃げることに精一杯で、次に犠牲になったびよん子を放ってしまう。他の動物たちは、びよん子を介抱しているのに。こんきちは、恥ずかしくなって、大声で泣く。	・<u>こんきち (きつね)</u>、<u>オオカミ</u>、<u>びよんこ (うさぎ)</u>	B-友情、信頼
45	<u>ぐみの木と 小鳥 (日本文教、2年、124～127頁)</u> ・ぐみの木は、おいしそうに実をついばんでいる小鳥を見て、最近顔を見ていない友だちのりすのことを思い出した。ぐみの木は、りすにぐみの実を届けることをお願いする。快諾した小鳥は、りすの元へ。りすは病気だった。何度も、嵐の日も小鳥はりすへぐみの実を届けた。りすは快方に向かう。	・<u>ぐみの木</u>、<u>りす</u>、<u>小鳥</u>	B-親切、思いやり

46	<u>ある日のくつばこで（日本文教、2年、128～131頁）</u> ・まり子ととしおは、体育の授業の前に、かずみが、くみ子の靴を隠すのを見てしまう。「けんかしたから、誰にも言わないで」と言って去っていくかずみ。体育の時間、まりこは心が晴れない。しばらく考えて、「そうだ、ゆう気を出そう。」と決心する。まりこの心は晴れてくる。	・まり子、としお、かずみ、くみ子	A-善悪の判断、自律、自由と責任
47	<u>ふわふわ ちくちく（日本文教、2年、134-135頁）</u> ・言葉には「ありがとう」のような「ふわふわ」な言葉と、「じゃま」のような「ちくちく」の言葉がある。「ふわふわ」「ちくちく」のそれぞれの言葉を言われたら、どんな気持ちになるか問いかけられている。また、学校の様々な場面の写真が挙げられ、どんな言葉をかけるか、問いかけられている。	・子ども（の写真）	内容項目の割り当てなし
48	<u>クラスの大へんしん（光村図書、2年、60～63頁）</u> ・ある学級の2枚の絵が比較されている。一枚目は、いじめがあったり、いがみあっていたり、整理整頓ができていない教室。二枚目は、対照的に穏やかで、教室内も整理整頓されている学級。「すごしやすいクラスに するためには どんなことが大切なのでしょう」ということが問いかけられている。	・小学生	C-よりよい学校生活、集団生活の充実
49	<u>やめなさいよ（光村図書、2年、64～66頁）</u> ・わたしは、けんじが、靴箱のところで誰かの靴を持って遊んでいるのを見かける。それはひとしの靴。ひとしの目の前で、けんじは、ひとしの靴を放り投げる。わたしは、どきどきしながら、「やめなさいよ」と言う。	・わたし、けんじ、ひとし	A-善悪の判断、自律、自由と責任
50	<u>いやな気もちかも しれないよ（光村図書、2年、67頁）</u> ・「友だちの しっぱいをおもしろがる」、「同じはんの 友だちを なかまに いれない」について、「あなたは こんなこと していますか」と問いかけている。	・子供（のイラスト）	内容項目の割り当てなし